

NEWSLETTER FROM
TICON GROUP

FORWARD

April-June 2017 | ISSUE 14

2020年の
財務報告基準
変更に伴う影響
(Episode 2)

インダストリー
4.0時代の物流

SCANIA
TPARKと提携しタイの
製造・販売を拡大

DHL Control Tower
DHL配送管理センター

TICON

が東部地域で工場
・倉庫を展開

EEEC

 に対応

NO. 1 PROVIDER OF FIRST-CLASS WAREHOUSE IN ASEAN



- International Quality
- Ready to Use
- Strategic Locations

Contact Us: **02-679-6565**



Message from the CEO



Mr. Virapan Pulges
Chief Executive Officer
TICON Industrial Connection PLC.

2017年もあと少しで第3四半期に入ろうとしています。多くのエコノミストは2つの要因により今年の投資が上向いているとプラス評価しています。ひとつは政府・国営企業による投資で、政府は10の特定産業分野や東部経済回廊 (EEC) のインフラに対する投資を推進しています。

2つ目は外国直接投資 (FDI) です。なかでも中国は同国政府が民間企業の外国投資を推進していることもあり、タイも重要な投資先のひとつになっています。一方、日本は大手企業による投資は減少傾向にありますが、ハイテクノロジーへの投資が増えています。これはタイをインダストリー4.0に発展させるというタイ政府の方針に合致したものです。BOIも99年間の土地リースや15年間の法人税免税等、ターゲットとする産業分野に対

する恩典を検討中で、今後EECへの投資が活況を呈することでしょう。

TICONもまた、Eコマース、産業ロボット、航空産業等の新産業分野の受け皿として、EEC内にある更地や開発済みの土地に注目しています。特に、TICONの今年の新規投資は、顧客のニーズに応じた工場・倉庫の建設 (BTS : Build to Suit) やグリーン・ビルディングの開発を強化していますので、TICONのさらなる成長を後押ししてくれるでしょう。

今回のForward Magazineでは、EEC投資に対する奨励策や同地域でのTICONの事業に関する情報をお届けします。投資および事業展開を検討するうえで読者の皆様の一助になれば幸いです。それでは、次号でまたお会いしましょう。

ISSUE 14 April-June 2017

CONTENTS



TICON SPOTLIGHT

TICONが東部地域で工場・倉庫を展開、EECに対応 **6**



INVESTOR'S FOCUS

2020年の財務報告
基準変更に伴う影響
(EPISODE 2) **10**

COFFEE TIME WITH GURUS **4**

インダストリー4.0時代の物流

EVENTS NEWS **12**

NEW TENANTS **13**

OPERATION CAFE **14**

DHL CONTROL TOWER
DHL配送管理センター

SPECIAL COLUMN **16**

SCANIA、TPARKと提携し
タイの製造・販売を拡大

PROPERTY HIGHLIGHT **18**

TAKE A BREAK **19**

「RAAN BAAN KAO NHOM」

FORWARD

Consultants

MR. VIRAPAN PULGES
MR. SOPON RACHARAKSA
MR. TAN JITAPUNKUL

Executive Editor (English)

MS. HATAIKAN DUTTADINTORN
MR. RUAIRIDH WATTERS
MR. THANATDECH SIRIVORANAN

Executive Editor (Japanese)

MR. YUTAKA OMOTEHARA

Executive Editor /

Art & Design Director

MS. HATAIKAN DUTTADINTORN
MR. THANATDECH SIRIVORANAN

Editorial Staff

MR. THANATDECH SIRIVORANAN

TICON TPARK

Published on Behalf of:

TICON GROUP

175 Sathorn City Tower, 13th Floor,
Suite 1308, South Sathorn Road,
Sathorn, Bangkok
10120 Thailand

Tel: +66 (0) 2679 6565

Fax: +66 (0) 2679 6569

Email: logistics@ticon.co.th

www.ticon.co.th

Follow us on

Twitter@TPARK_Live



Article by Dr. Vatcharapol Sukhotu

Logistics and Supply Chain Professor
Naresuan University
Contact: vsukhotu@aggienetwork.com

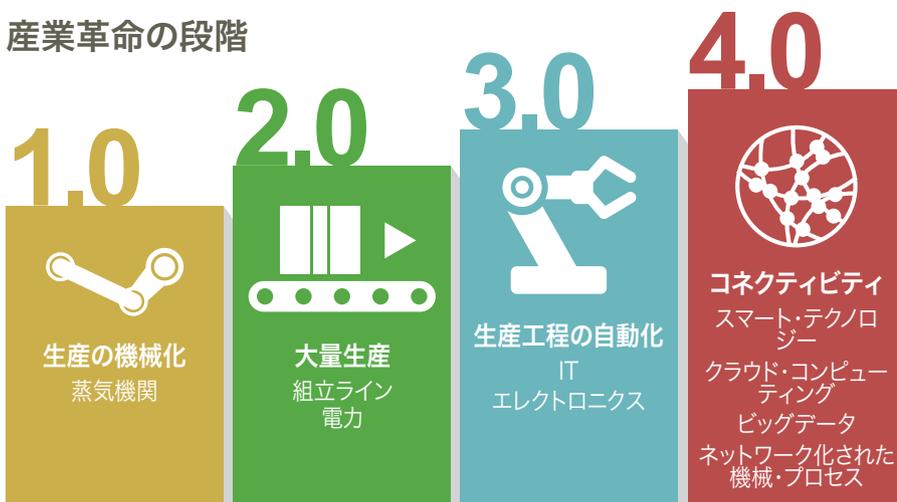
インダストリー 4.0 時代の物流



最近、誰もが4.0という数字を口にするようになりましたが、これには様々な種類があり、マーケティング4.0、人材4.0、教育4.0、トレンド4.0といった具合です。タイではプラユット首相が国家経済開発コンセプトとして「タイランド4.0」を提唱したのに始まり、2016年末からスタートした第12次国家経済社会開発計画にも盛り込まれました。「タイランド4.0」はテクノロジーとイノベーションにより製品とサービスの付加価値を向上させることで経済成長を促進するというものです。

4.0という言葉は、ドイツ政府が情報技術による製造管理の研究を目的に設立したIndustrie4.0ワーキンググループに端を発する「Industry4.0」または「Industries4.0」が起源のようです。また、4.0という数字は産業革命の段階を表し、蒸気機関の発明により生産の機械化が始まった18世紀の第一次産業革命、大量生産が可能となった20世紀初頭の第二次産業革命（ヘンリー・フォードによる「A customer can have a car painted any color he wants as long as it's black」に象徴される時代）、コンピュータ技術の導入により生産工程の自動化が20世紀後半から現在に至るまで進められている第三次産業革命、そして高度化した機器同士をネットワークで繋げ、収集したビッグデータを活用してInternet of Things（モノのインターネット）を進める第四次産業革命。

産業革命の段階



出所: Oxford Analytica



タイの発展モデル



出所: 工業省タイランド4.0産業開発戦略

一方、テクノロジーとイノベーションにより製品とサービスの付加価値を向上させることで経済成長を促す「タイランド4.0」モデルは、タイが中進国の罠に陥るのを防ぎ、安定した国家を築くための推進役となるものです。タイの経済・産業の発展段階はこれまで、農業中心の1.0、軽工業中心の2.0、重工業時代である現在の3.0と続いてきています。

それでは、物流産業の4.0はどうでしょうか？ ロジスティクス4.0では事業ニーズに対応できるようにサプライチェーンにおける原材料や製品の移動をサポートする必要があります。イノベーションによる製品とサービスの付加価値向上は迅速かつ臨機応変に対応できる物流に依拠することになるでしょう。物流大手14社のCEOへの調査でも、Uberの事業モデルが顧客に届ける最終配送段階において重要な役割を担っていることが明らかになっています。同モデルはテクノロジーの活用によって従来の配送と比べて低コストを実現しているのが特徴ですが、顧客ニーズが変化し続ける現状においては、毎回の配送規模が縮小する一方で迅速に顧客に届けることができる新たなビジネスが勃興してくることでしょう。

また、物流オペレーションにおいても、情報通信技術の活用により各種データにアクセスし、計画、管理、オペレーションを実行する必要があります。例えば、最新計画策定のソフトウェアを需給計画や在庫計画、

“The so-called Logistics 4.0 shall support movements of raw materials and products in the value chain in a manner that best suit the demands of businesses driven by innovations.”

流業務においてスマートファクトリーと各種機器の間で各種データをやりとりすることです。例えば、機械が移動機器にデータを送信し、保管を指示する、あるいは、製造部品が減少した際に配送車に部品の受け取りを指示する、といった具合です。このレベルに至るためには物流プロセスをシステム化することから始める必要があります。これにより通信情報技術を活用することができ、物流プロセスを効率よく管理し、関連業務システムと情報共有することが可能になります。

製品配送に活用し、コスト低減や変更への迅速な対応を実現していきます。

しかし、ロジスティクス4.0の本当の意味は何でしょうか？ インダストリー4.0の専門家であるDr. Thomas Bauernhanslが言及するスマート・ロジスティクスをご紹介します。彼によると、スマート・ロジスティクスとは、Internet of Thingsにより物

私はタイランド4.0によりタイが発展することを期待しています。それにはすべての企業や組織が変化に対応するために物流をどのように変革していくのかを考える必要があります。出遅れないためにも自己変革から始めましょう。■

Reference:

- Oxford Analytica Daily Brief Service, 12 Oct 2016
- The strategies on Thailand's industrial development to the Industry 4.0 of the Ministry of Industry, October 2016
- Industry 4.0: the next industrial revolution; Author: Sam Shead; Source The Engineer (Online), London
- An interview with Dr. Suwit Mesinsee from Thairath Newspaper, 2 May 2016 issue
- The 2016 3PL CEO Survey: Threats, Disruptions and Opportunities; Source: Supply Chain Management Review Apr 2016
- Fraunhofer Forum: Applied Innovation in Smart Factory and Energy, Berlin, Oct 2014 by Prof. Dr. Thomas Bauernhansl

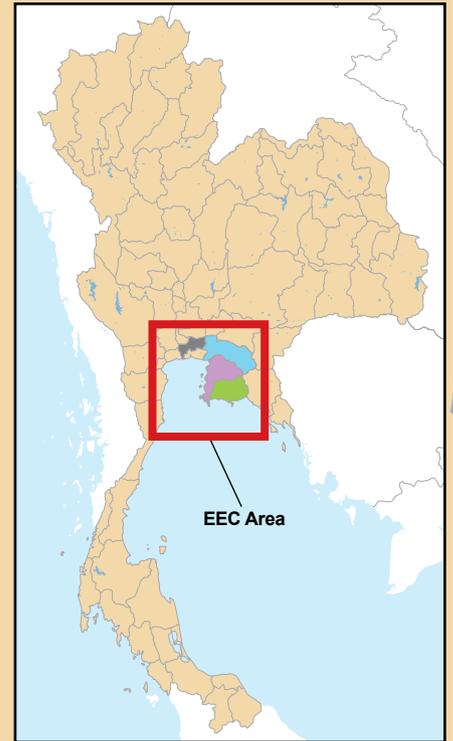
Disclaimer: This article was written by third parties. Such article is owned by their authors for publication on the newsletter. TICON group does not warrant, endorse, guarantee or assume responsibility for any third party articles including their accuracy, or the intellectual property rights in or relating to such article. For more information, please contact directly to the author of this article.

TICON

が東部地域で工場 ・倉庫を展開、

EEEC

に対応



最近、FORWARD MAGAZINE編集部がどこに行っても「EEEC」という言葉を耳にするようになりました。では「EEECとは何でしょうか？」私たちが詳細をお届けします。

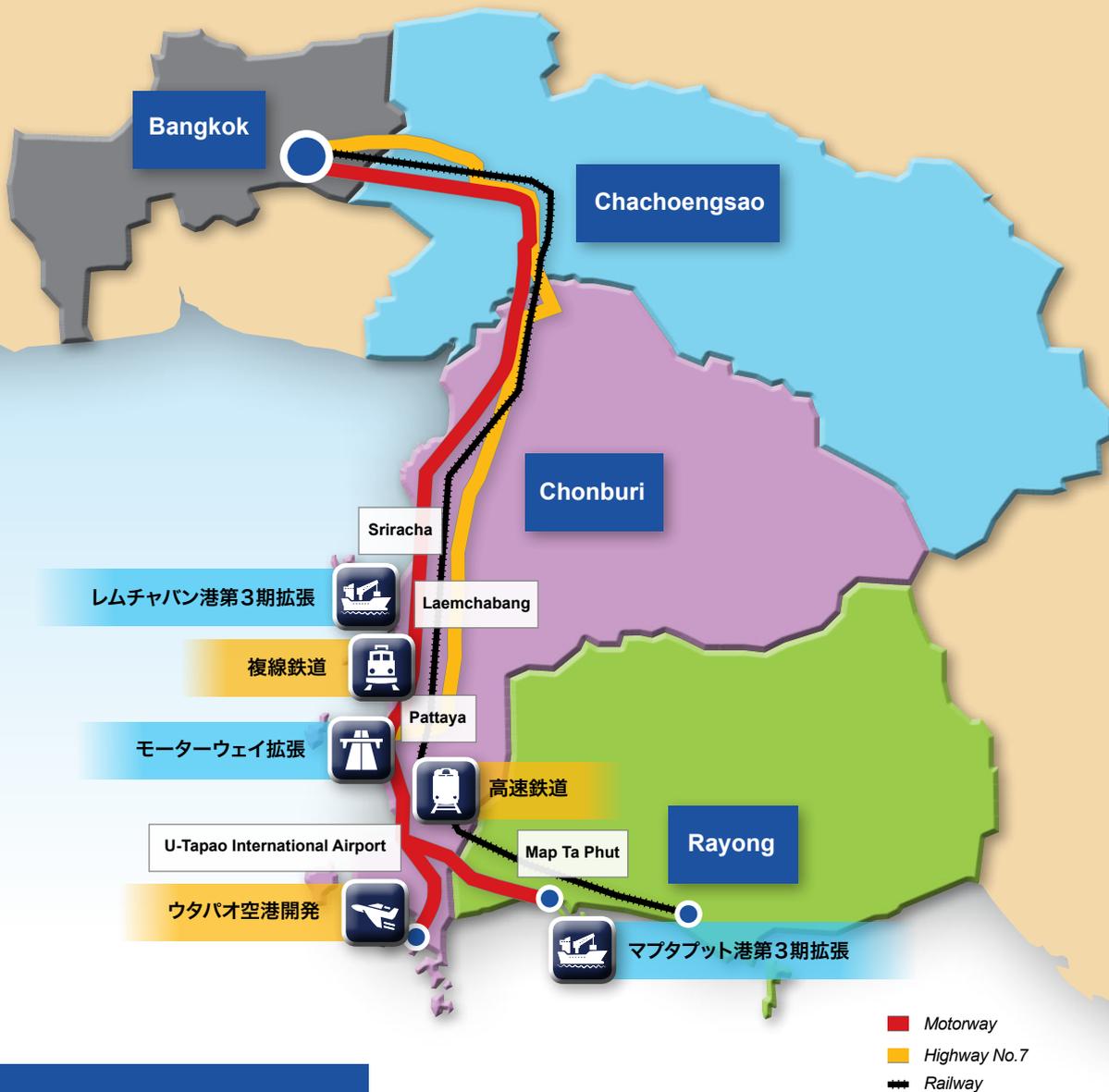
EEECとは

いま、投資関連情報で最も注目を集める「EEEC」。「EEEC」とはチョンブリ、チャチュンサオ、ラヨンの3県にまたがる経済特区「東部経済回廊」の開発計画(Eastern Economics Corridor Development)のことで、新規投資を誘致し、タイの競争力向上を目指す国家戦略のひとつです。東部沿岸部のイースタンシーボードは1981年から開発が始まり、現在は自動車、自動車部品、エレクトロニクス等の産業が集積する製造業の大動脈となっており、陸海空のインフラや産業用水も整備されています。EEECはこれを拡張する形で開発を進めていく計画です。

“The EEC is to be elevated as the leading economic zone of Thailand in line with the government’s policy aiming for the zone to act as a catalyst for the country’s fourth industrial revolution or the Industry 4.0 that combines the industrial with the IT technologies, leading to the sustainable growth of the economy from 2016 onwards.”

工業省ではすでに東部経済特区法の草案を作成し、2016年10月4日の閣議で承認されています。現在は国家立法議会

で審議されており、年内の施行が予定されています。同法案は向こう10年間(2017～2026年)のEEECにおける投資・開発計画を後押しし、官民合わせて1兆5000億バート以上の投資の受け皿とする方針です。



新10産業分野がインダストリー4.0を促進

政府は、EECをタイにおける先進経済地域に格上げし、インダストリー4.0時代の起爆剤にすることで長期的な経済成長を促進したい考えです。なかでも次の10特定産業分野の製造拠点とし、将来の成長エンジンとする計画です。

■ 5 既存産業の持続的成長 (First S-curve) = 次世代自動車産業、スマート・エレクトロニクス産業、高級観光産業、アグリカルチャー・バイオテクノロジー産業、次世代食品産業

■ 5 新産業の開発 (New S-curve) = 産業ロボット、物流・航空産業、バイオケミカル産業、デジタル産業、医療・健康産業



インフラ開発と投資誘致の
恩典

政府は、EEC開発を早急に進めるため、ウタパオ空港の開発やドムアン、スワンナプーム、ウタパオの3空港を結ぶ高速鉄道建設等のインフラ開発を承認しています。また、ラヨン県のイノベーション・ゾーン(EECi)とチョンブリ県のデジタル・ゾーン(EECd)のテクノロジー・ゾーン2カ所の開発方針も承認しています。

EEC投資に対する恩典としては、法人税免税期間を新投資奨励法では8年から13年、10特定産業分野競争力増進法では15年とする方針です。さらに、外国人投資家に対して50年プラス49年の土地リース権の付与、5年ビザの発給許可、外国通貨の保有許可といった恩典を与えるとともに、地域統括事務所の恩典付与、許認可に関するワンストップサービス設置等も検討されています。

EEC内のTICONプロジェクト

TICONグループは、各種産業の投資の受け皿として、EEC内の3,600ライの土地に26プロジェクト、230万㎡のレンタル工場・倉庫を用意しています。

TICON's Projects in the EEC Zone

TICONグループは、EECのチョンブリ、チャチュンサオ、ラヨンの3県にレンタル工場9プロジェクトとレンタル倉庫17プロジェクトを展開しています。



- Warehouse
- Motorway
- Highway No.7
- - - Railway

Chacherngsao Province

チャチュンサオ県にはバンコクや東部地域向けの配送センターに適したレンタル倉庫や輸出入企業に適した免税ゾーン内の倉庫を提供しています。

EEC内のレンタル工場・倉庫

県名	工場・倉庫の床面積 (㎡)	敷地面積 (ライ)
チャチュンサオ県	540,000	850
ラヨン県	1,600,000	2,500
チョンブリ県	160,000	250
合計	2,300,000	3,600

2017年5月時点のデータから作成

Chonburi Province

チョンブリ県はEEC3県のなかで最も多くの工場と倉庫を開発しています。レンタル工場はアマタナコン工業団地、ヘマラート・チョンブリ工業団地、ピントン工業団地(1、2、3、5)、レムチャバン工業団地内にある一方、レンタル倉庫はTPARKパントン、TPARKレムチャバン、TPARKイースタンシーボードがあり、自動車、エレクトロニクス、物流の各産業に適しています。



Rayong Province

ラヨン県ではアマタシティ工業団地、ロジャナ工業団地ラヨン内に自動車メーカーや自動車関連メーカーに適したレンタル工場があります。一方、レンタル倉庫はアマタシティ工業団地に工場を持つ自動車メーカーや部品メーカー、物流企業向けにTPARKアマタシティを運営しています。



「わぁ、まさにホットなエリアなんです。なぜ皆さんがEECに言及するのかがわかりました」



Mr. Samart Russameerjwong

Chief Investor Relation
TICON Industrial Connection Plc.

2020年の 財務報告基準変更 に伴う影響 (Episode 2)

FAPのIFRS策定委員会は現在、2つの新基準を作成中で、2020年1月1日の属する会計年度またはその翌会計年度から適用される見込みです。新基準のうちの1つはリースに関する基準で、ここではその概略をご紹介します。

IFRS 第16号適用に伴う影響

借手の影響

1. リース契約においてリース期間を12カ月超または12カ月以下と明記している場合において、借手がリース資産を買い取る権利を有する場合(オフィス機器等の価値の低い資産を除く)。

- 借手はリース契約により資産と負債を認識する必要があります。
- 借手が貸手に支払うリース料

は債務減および利息経費となります。

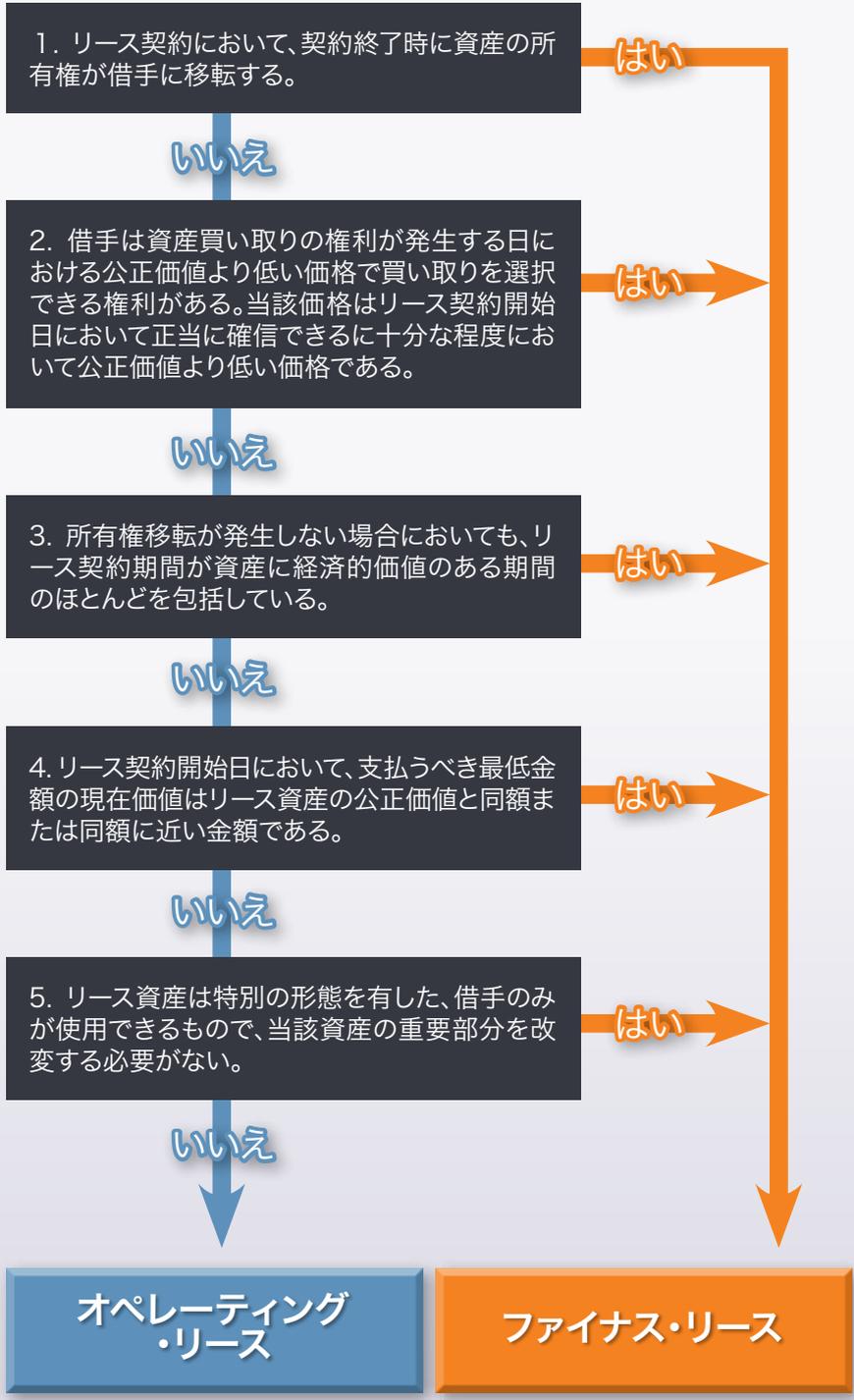
2. 会社の資産および負債が増加します。
3. 負債資本倍率(DEレシオ)が上昇します。
4. 利息、減価償却費が増加するとき、利息経費控除前利益、法人税、減価償却費も増加すると考えられます。
5. 総資産利益率(ROA)は低下します。

6. 流動比率は低下すると考えられます。

7. リース資産をさらに第三者にリースするといった、リース資産が投資対象である場合、借手は資産価値の計上方法として原価モデルと公正価値モデルのいずれかを選択することができます。借手が公正価値モデルを選択した場合において、資産価値が変動したとき、その差額を損益計算書には計上されないその他の包括利益として計上する必要があります。



5 条件



8. セール・アンド・リースバック取引量は減少すると考えられます。これはこれまでオペレーティング・リースにおいてセール・アンド・リースバックを行う者の利益となりましたが、今後はそうならないからです。

貸手の影響

- IFRS第16号の適用による影響はありません。
- 会計原則は従来通りであり、リース契約の種類によって以下の2種類に分かれます。
 - ファイナンス・リース=リース契約が以下の5条件のいずれかに該当する場合
 - オペレーティング・リース=リース契約が以下の5条件のいずれにも該当しない場合

なお、TICON Industrial Connection Pcl.はレンタル工場・倉庫開発事業を行う上場会社で、リース契約においてすべての運用を行う貸手の立場にあります。このため、2020年1月1日に導入が予定されているIFRS第16号の適用に伴う重要な影響はありません。■



2017年定時株主総会に出席したTICONグループ経営陣

(左から) ウデー・ロハチットピタック氏(取締役)、パノット・シリワタナバックディー氏(取締役)、チャーイ・ウィニットブット氏(取締役)、チャーイノイ・ブアンコスム氏(取締役会会長兼監査役会会長)、ウィラバン・ブーンゲート氏(CEO)、チャチャワン・チアラワノン氏(取締役兼監査役)、トリークワン・ブンナーク氏(取締役兼監査役)

TICON、新取締役・経営陣をお披露目

タイ最大手の高品質レンタル工場・倉庫供給会社であるTOCON Industrial Connection Public Company Limitedはこのほど、2017年定時株主総会を開催し、2016年度の純利益が2億7,810万バーツになったことを報告しました。同時に配当金を配当性向53.35%となる1株当たり0.08バーツとすること、および550,242,712株を上限とする既存株主・一般投資家向けの増資を決議しました。今回の増資は向こう1年内における国内外での事業拡大に向けた資金調達为目的で、TOCONグループの工業用不動産事業の継続的な拡大を可能にするものです。■

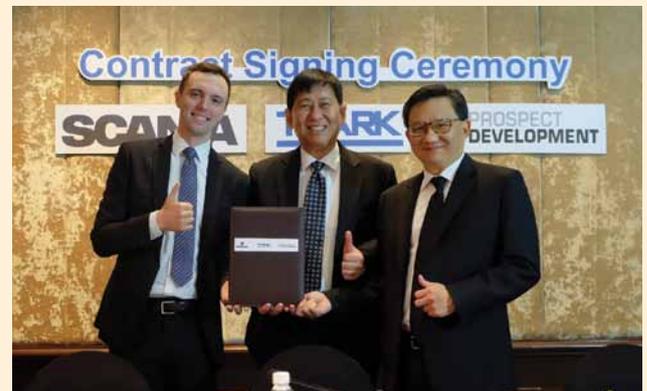


写真(左から) Mr. Louis van de Guchte(QHSE Manager)、Mr.Kaan Bilgen(Production Supervision Director, Asia)、ウィラバン・ブーンゲート氏(CEO, TICON GROUP)、ソーボン・ラーチャラクサー氏(President, TICON Industrial Connection PCL)

Global Architectural、TPARKレムチャバン2でTICON経営陣を歓迎

イタリアのカーテンウォール製造・内装設計大手、Permasteelisa GroupのGlobal Architectural Co., Ltd.はこのほど、TPARKレムチャバン2に開設した同社の新倉庫でTICON経営陣の訪問を歓迎しました。同プロジェクトは東部経済回廊(EEC)のチョンブリ県に位置し、配送センターや輸出入企業等に適しており、東部地域の産業の受け皿となるものです。■

TPARKとPROSPECTがバンプリに工場開発 SCANIAが第一号



(左から) SCANIA GROUP (THAILAND) CO., LTD.のテッド・ゴランソン社長代行、TICON Industrial Connection Pclのウィラバン・ブーンゲートCEO、PROSPECT DEVELOPMENT CO., LTD.のウォラシット・ポカーチャイバット会長

TICON Logistics Park Co., Ltd.(TPARK)はこのほど、PROSPECT DEVELOPMENT CO., LTD.と共同でバンプリ地区での工場・倉庫開発事業を開始しました。これは自動車や消費財、物流等の事業のニーズに対応するため、その第一号としてスウェーデンのバス・トラックメーカーであるSCANIA GROUP (THAILAND) CO., LTD.との間でBuilt to Suit方式による工場の賃貸借契約を締結しました。工場面積は14,000㎡で、契約期間は10年。2018年始めの完工を予定しています。■

TICONグループ タイ初のEDGE認証を取得

タイ最大の高品質レンタル倉庫開発会社であるTICON Logistics Park Co., Ltd. (TPARK)はこのほど、Thinkstep-SGS協会からEDGE(Excellence in Design for Greater Efficiencies)の認証を取得しました。EDGEは世界銀行グループの機関である国際金融公社(IFC)が開発した新興国市場向けグリーン倉庫建築設計基準です。TPARKは現在、EDGEの基準に基づいてTPARKバンブリ2(床面積:29,250㎡)を開発中で、環境にやさしい材料を使用し、一般の倉庫と比較してエネルギーと水の使用を20%以上低減できるほか、温室効果ガスの減少にも貢献します。■



写真(左から): ジャトゥワット・ワロドムバン氏(Fouder President, Smart Green Building Network Co., Ltd. & Green Building Expert of LEED AP and TREES)、ハタイカーン・ドゥッタディントン氏(Head of Marketing, TICON Logistics Park Co., Ltd.)、ウィロート・ナ・ナコン氏(Managing Director, SGS Thailand)、Mr. Harry Fernau(Global Product Manager Energy & Green Building, SGS Austria Control-Co. Ges.m.b.H)

NEW TENANTS



ISOBE (Thailand) Co., Ltd.

ISOBE(THAILAND)CO.,LTD. 磯部鉄工(株)は、日本で1914年に創業して以来百余年、製造業や発電所・プラントの根幹を支える産業用機械装置や特殊鋳物の技術を国内外に提供しています。このたび、同社はグローバル展開の基地とすべく、タイに子会社・ISOBE(THAILAND)CO.,LTD.を設立、アジア工業団地内のTICONミニ工場(面積:1,100㎡)を賃借し、よりコスト競争力のある製品供給をめざしています。

Superior Plating Technology (Thailand) Co., Ltd.



Superior Plating Technology (Thailand) Co., Ltd.は、1999年に台湾で設立された表面処理(亜鉛、クロム、スズ、金、銀)を得意とするSuperior Plating Groupの子会社です。同グループは台湾証券取引所に上場し、自動車メーカー(Hitachi Automotive System, Dongfeng Motor, GAIG automobile)、ハードディスクメーカー(Seagate & Western Digital)、消費財・医療メーカー(Braun & Novo Nordisk)、電機メーカーと提携しています。同社は現在、ロジャナ工業団地アユタヤ内のTICON工場(面積:5,000㎡)を賃借しています。



DHL Supply Chain (Thailand) Co., Ltd.



DHL Supply Chain (Thailand) Co., Ltd.は、物流分野のグローバル企業で、DHLグループは国内および海外向け小包配達、ネット通販向け配送、陸・海・空輸による国際宅配サービス、サプライチェーン・マネジメント等のサービスを提供しています。同社はこのほど、TPARKバンブリ2の倉庫を追加賃借し、倉庫面積は10,026㎡となりました。これにより同社がTPARKバンナ、TPARKバンブリ、TPARKワンノイ、TPARKイースタンシーボードに有する倉庫の総面積は116,614㎡となります。

Norma Pacific (Thailand) Ltd.



Norma Pacific (Thailand) Co., Ltd.は、締め具、パイプ、コネクタ、結束バンド等の締結・結合技術製品で世界トップのドイツ企業です。同社はこのほど、自社製品の保管およびタイ・東南アジア市場向けの供給を目的にTPARKパントン1の倉庫(面積:2,600㎡)を賃借しました。



DHL CONTROL TOWER

DHL 配送管理センター

DHL SUPPLY CHAIN (THAILAND) CO., LTD.は現在、3,000台以上の配送車両でタイ全土向けの配送をカバーしています。配送業務はDHLのサービスのなかでも最重要業務ですので、配送車両のオペレーションの最適化を重視し、経験と専門性を備えたスタッフに加えて、最新技術への投資に注力しています。



DHLの配送管理チームは、配送管理センター（Control Tower）を通じて毎日24時間態勢ですべての車両の配送状況を管理しています。すべての車両にはTelematicsという器材が取り付けられ、配送過程で生じるすべての事象を追跡・記録し、配送管理センターにリアルタイムでデータを送信されていますので、配送管理チームがすべての状況を把握し、即座に対応することを可能にしています。



ドライバーの運転管理

Telematicsは、急ブレーキ、急ハンドル、スピード超過、4時間を超える休憩なしでの運転、駐車禁止エリアでの駐車、ルート外での運転、シートベルト未着用など、危険が生じる可能性のあるドライバーの行動が発生すればすぐに配送管理センターに報告するとともに、ドライバーに対して警告音を発します。

配送状況の追跡

Telematicsは、車両の位置情報も発信していますので、配送車両がタイのどこを走行中であろうとも配送管理センターのモニターで常時配送状況を確認できます。



走行ルート策定

配送管理センターに送信されるデータは走行ルートの策定・改定用に分析され、配送効率の向上に役立てられていますので、もっとも効率的で、もっとも安全な配送を実現し、問題なくお客様の手元に商品を届けることを可能にしています。



配送管理センターとTelematicsの活用によって、当社の業務レベルが向上し、お客様に最高のサービスを提供することが可能となり、正しい場所に時間通りに商品を届けることで当社のコストが低減でき、お客様の成功をサポートします。さらには、大気汚染の軽減にも貢献し、道路利用者の生命の安全も手助けしています。

DHLは現在、バンナ、バンプリ、ワンノイ、イースタンシーボードのTPARKに10万平方メートルを超える倉庫を有し、TPARKバンプリ2に配送管理センターを設置しています。■

SCANIA、TPARKと提携し タイの製造・販売を拡大

SCANIAは1891年に設立された125年の歴史を誇るスウェーデン企業で、自転車と列車の製造からスタートし、現在はトラック、バス、エンジンを製造し、世界中で販売しています。



SCANIAとタイの関係は同社が1914年にタイ外務省にトラックと救急車を納車したときから始まり、30年前にタイ初の販売代理店を設置し、2001年には組立工場を設立しました。

SCANIAのタイ国内事業はここ2、3年で急拡大し、同社はタイをアジアにおける主要マーケットのひとつに位置付けており、製造・販売の拡大に向けて8億パーツを投じて組立工場を建設することを決定しました。今回の投資はタイ国内における同社の事業戦略の一部であり、ワークショップで発表済みのサービス網の拡充をサポートするものです。同社は現在、ワークショップを10回開催しており、2019年までに17回の開催を予定しています。



今回の投資では、SCANIAはTPARKと提携してバンプリ地区に新組立工場を建設します。新工場ではトラック、バスのシャシ、トラックのキャブを製造するとともに、生産、物流、購買、研究開発の各部門を同地に集約します。

SCANIAは世界中の同社工場に適用している高い工場建設基準を有しています。例えば、床の品質やキャブ塗装部屋でのシリコンフリーの環境などです。SCANIAは、TPARKが同社の定める基準に基づく工場を提供できる理想的なパートナーであると認め、TPARKもまた、同社の経験から高品質の工場を建設し、SCANIAのタイ国内における事業拡大に貢献できることを確信しています。■

いま東部経済回廊 (EEC) が注目を集めていますので、今回のPROPERTY HIGHLIGHTではEECにあるTICONの工場と倉庫をご紹介します。品質と立地のよさではどこにも負けません。

TICONアマタナコン工業団地

EEC内ですぐにも事業を開始するために製造拠点を探している事業者へ、アマタナコン工業団地内のTICONレンタル工場をご紹介します。同プロジェクトはすべての産業のニーズに対応していますが、なかでもエレクトロニクス産業と自動車産業に適しています。どちらも日系企業が新たな投資を開始しており、回復傾向にあります。同地はバンコク、スワンナプーム空港、レムチャバン港へのアクセスが便利で、周辺には主要工業団地が点在していますので、事業展開に適しています。

利用可能な物件

所在地: アマタナコン工業団地

工場面積: 1,000 - 5,500㎡
床耐荷重: 2t/㎡
天井高さ: 7m



詳細問合せ、工場見学のご連絡は下記まで。

Tel: +66 (0) 805 805 005

Email: marketing@ticon.co.th または info@ticon.co.th (日本語)

利用可能な物件はここでチェック!



TPARKレムチャバン2

物流や製品配送に最適なプロジェクトとして高品質レンタル倉庫のTPARKレムチャバン2をご紹介します。同プロジェクトは物流企業および物流システム構築に向けて最適な立地を探している輸出入企業に適しています。

同プロジェクトはEEC内のチョンブリ県に位置し、国道に面しているうえ、レムチャバン港や東部地域の主要工業団地にも近く、物流に適した立地となっています。現在、一般ゾーンと免税ゾーンの両方にレンタル可能な物件があるほか、自社事業に合わせて倉庫を建設したい事業者に適した更地も用意しています。いつでも視察が可能ですのでご連絡ください。



詳細問合せ、工場見学のご連絡は下記まで。

Tel: +66 (0) 805 805 005

Email: marketing@ticon.co.th または info@ticon.co.th (日本語)

利用可能な物件はここでチェック!



利用可能な物件

所在地: 国道7号

一般ゾーン

工場面積: 1,500 - 2,450㎡

免税ゾーン

工場面積: 1,500 - 3,900㎡

床耐荷重: 3t/㎡

天井高さ: 10m

Take a Break



「Raan Baan Kao Nhom」



お腹がいっぱいになったあとはおいしいスイーツを食べに出かけたいです。今回のTake a Breakは、そんな読者のためにおしゃれなコーヒーショップをご紹介します。アユタヤ県にある「Raan Baan Kao Nhom」はタイのウェブサイト「Chillpainai」でアユタヤのコーヒーショップのランキングで上位に入る、タイの伝統スタイルのスイーツとコーヒー・お茶の美味しいお店です。場所はロジャナ工業団地アユタヤからも近く、ウートン通りをアユタヤ病院に向かって東に走り、病院から1.5キロ行った左手、ポムペット要塞の手前にあります。車で行った場合は店の前に駐車が可能です。

「Raan Baan Kao Nhom」は小さな店ですが、ブロックでできたレトロ調の壁、木製の家具類、Warm White

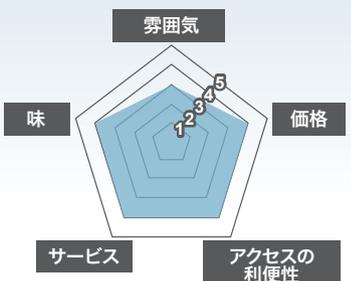
の照明で構成された店内は可愛く、暖かい雰囲気となっています。おすすめは普段あまり見かけないタイの伝統スタイルのスイーツとドリンクのセット「mix and match」。ドリンクはBaan Kao Nhom Coffee、Rose Soda、Lemon-sweet pea drink、Ayutthaya Charming Green Tea(ブラウンシュガーが底に沈んだグリーンティで、混ぜ合わせれば声にならないくらいおいしくなります)などがあります。スイーツもまた食べたくなるものばかりですが、今回私たちが食べたのはKanom Sai Sai、Kanom Chan、Kanom Tal、Kanom Pang Aob Boran(数種類の色があり、アロマの香りがしま

す)。そして最後はOld Town Ice Creamで締めです。帰りには家族へのお土産にスイーツを買いたくなるでしょう。近くに行ったら是非とも立ち寄ってタイスイーツを楽しんでください。■

Raan Baan Khao Nom

営業時間：月～金曜日：8時～19時、土・日曜日：9時～19時

立地： ロジャナ工業団地アユタヤのTICONプロジェクト近く
住所： 2/10 U-Thong Road, Tambon Hor Rattana Trai, Amphoe Phra Nakhon Si Ayutthaya, Phra Nakhon Si Ayutthaya province 13000
電話： 097-9219465



LEADING PROVIDER OF **QUALITY FACTORIES** IN INDUSTRIAL ESTATES IN THAILAND



18
 PROJECTS ACROSS
 THE COUNTRY

**READY BUILT
 FACTORIES FOR RENT**



Contact us:
 Tel: +66 (0) 2679 6565
 Email: marketing@ticon.co.th
info@ticon.co.th (japanese)
www.ticon.co.th

TICON Industrial Connection Public Company Limited
 13th Floor, Sathorn City Tower, 175 South Sathorn Road,
 Bangkok, 10120 Thailand